

千葉商工会議所景気動向調査

平成 28 年 8 月調査結果

平成 28 年 9 月

千葉商工会議所

千葉商工会議所景気動向調査 ……平成28年8月調査結果報告……

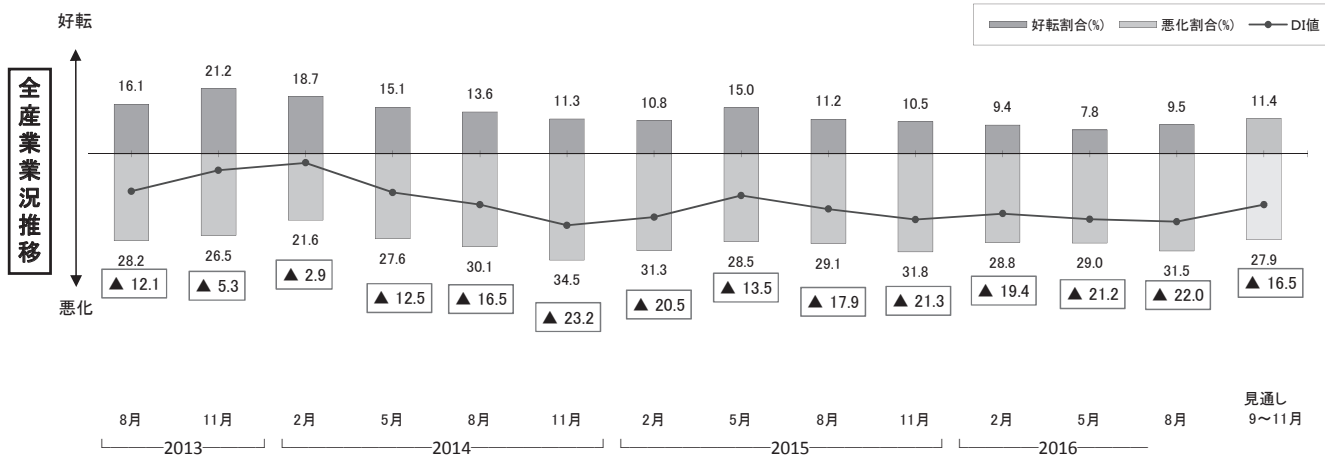
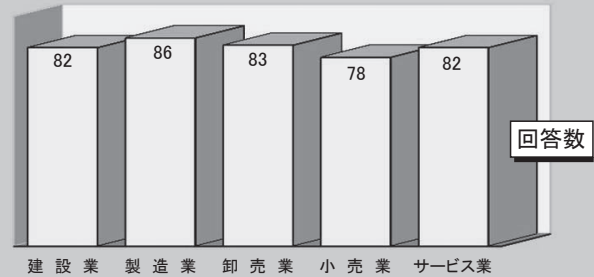
調査期間：平成28年8月9日(火)～8月24日(水)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社
(回答 411社 回答率 82.2%)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりの意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)



【全体的特徴】

(▲はマイナス)

業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成28年5月、以下同じ)と比較して、建設業・製造業・卸売業が下降し、小売業・サービス業が上昇した結果、全産業合計DIは0.8ポイント下降して▲22.0となり、2期連続の悪化となった。

また、向こう3ヶ月(9月～11月、以下同じ)の先行き見通しは、全ての業種が上昇する見込みとなっており、全産業合計DIは現状より5.5ポイント上昇の▲16.5となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、製造業・卸売業・小売業・サービス業は上昇、建設業が横ばいとなった結果、全産業合計DIは4.7ポイント上昇して▲19.7となり、5期ぶりの改善となった。

また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、建設業・卸売業・小売業が上昇し、製造業・サービス業が横ばいの見込みとなっており、全産業合計DIは現状より7.4ポイント上昇の▲12.3となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、製造業・卸売業で下降し、建設業・小売業・サービス業が上昇した結果、全産業合計DIは0.9ポイント上昇して▲19.1となり、2期ぶりの改善となった。

また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、製造業が下降し、建設業・卸売業・小売業・サービス業が上昇する見込みとなっており、全産業合計DIは現状より1.5ポイント上昇の▲17.6となっている。

仕入単価DIは、2期ぶりに改善。円高による原材料価格の下落や低水準の燃料費等によることが伺える。

従業員DIは、不足と回答した企業が増え、人手不足感が強まっている。

資金繰りDIは、2期ぶりの改善となっているものの、長期的には横ばいとなっている。

全体を総括すると、業況DIは2期連続で悪化し、依然として厳しい状況が続いているが、先行き見通しでは、建設業を中心に全産業で改善が見込まれている。一方、人手不足感が続くとともに、製造業や卸売業を中心に円高の影響を懸念する声が強まっている。

【業種別特徴】

・建設業

前回調査と比較して、業況DIは2.5ポイント下降して▲24.4に、売上DIは横ばい、採算DIは11.0ポイント上昇して▲15.8となった。採算DIは2期ぶりの改善、業況DIは2期連続の悪化、売上DIは横ばいとなった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIは全て現状より上向くと見方になっている。

調査回答企業からは、「例年、公共事業の関係で年度の後半は忙しくなる」「東京オリンピックの準備に向けて、受注機会も増え、業界的に先行きは明るくなるのではないか」などの声があった。

【調査結果のポイント】業況DIは2期連続で悪化し、依然として厳しい状況が続いている。先行き見通しでは、建設業を中心に全産業で改善が見込まれている。

景気動向調査は インターネットで詳細をご覧くださいませ。

<http://www.chiba-cci.or.jp/>

【全産業】

・製造業

前回調査と比較して、業況DIは6.7ポイント下降して▲23.2に、売上DIは2.6ポイント上昇して▲16.2に、採算DIは4.4ポイント下降して▲19.7となった。業況DIは4期連続、採算DIは2期連続の悪化、売上DIは2期ぶりの改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DIは現状より上向くものの、売上DIはほぼ横ばい、採算DIは下向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「工業系大学からの施工管理求人に苦戦している」「円高傾向による受注の減少を危惧している」などの声があった。

・卸売業

前回調査と比較して、業況DIは6.5ポイント下降して▲26.5に、売上DIは3.2ポイント上昇して▲20.5に、採算DIは2.7ポイント下降して▲27.7となった。業況DIは3期ぶり、採算DIは2期連続の悪化、売上DIは2期連続の改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIは全て現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「円高の影響で、輸出の売上の先行きは少し暗い」「人材確保が非常に難しい。雇ったとしても、先行きが不安な為、正社員はリスクが大きく悩む」などの声があった。

・小売業

前回調査と比較して、業況DIは6.3ポイント上昇して▲22.1に、売上DIは5.2ポイント上昇して▲25.7に、採算DIは0.6ポイント上昇して▲18.2となった。業況DIは3期連続、売上DI・採算DIは2期連続の改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIは全て現状より上向くとの見方になっている。

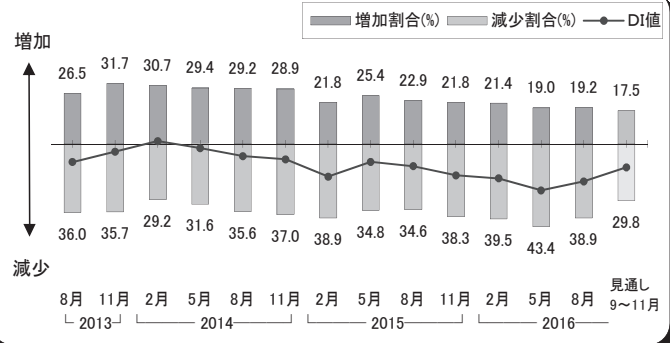
調査回答企業からは、「個人消費が持ち直さない」「新卒の求人を出しているものの全く反応がない。売り手市場を実感する」「円高により、仕入単価は下がった」などの声があった。

・サービス業

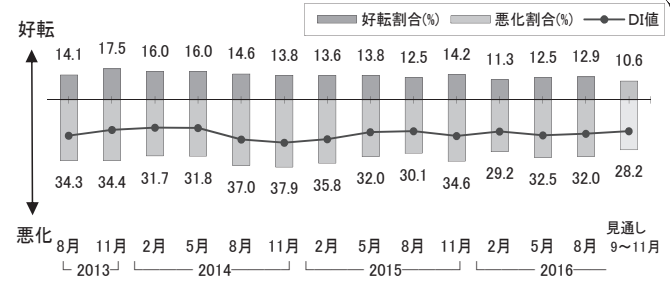
前回調査と比較して、業況DIは6.1ポイント上昇して▲13.4に、売上DIは12.3ポイント上昇して▲4.8に、採算DIは1.2ポイント上昇して▲13.4となった。業況DI・売上DIは5期ぶり、採算DIは2期連続の改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・採算DIは現状よりも上向くものの、売上DIは横ばいとの見方になっている。

調査回答企業からは、「昨年好調だったインバウンドの利用は、このところ停滞している模様」「雇用確保の為に人件費増加が人件費のみならず業務委託費など経費にも波及しコスト増を招いている」などの声があった。

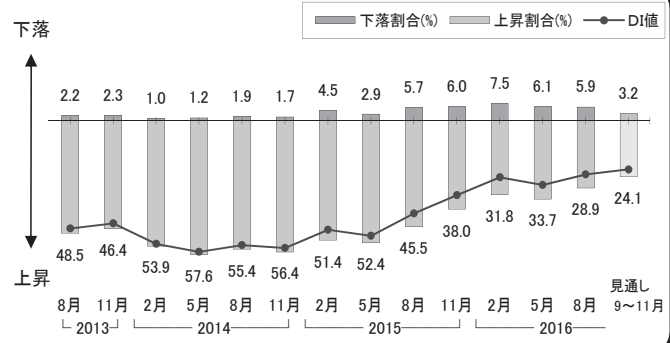
売上推移



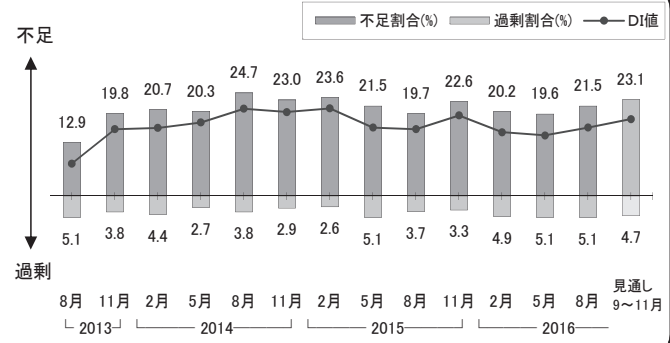
採算推移



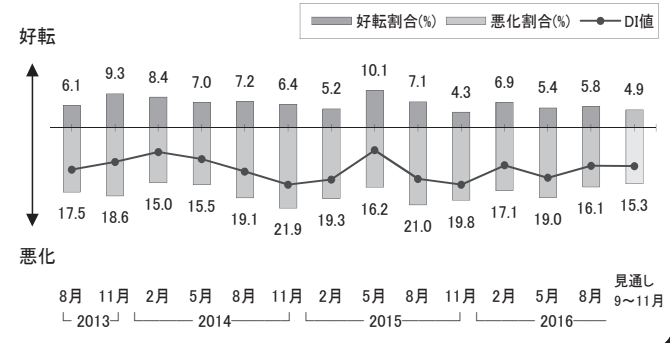
仕入単価推移



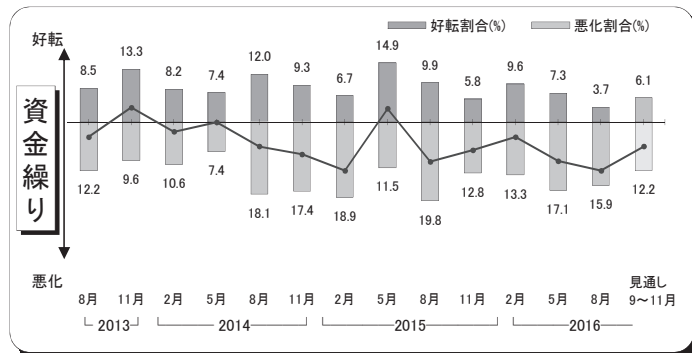
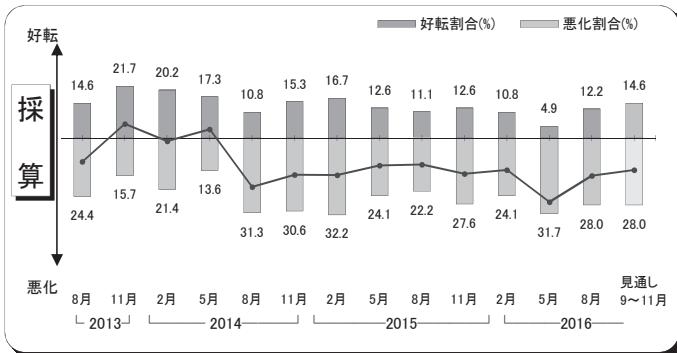
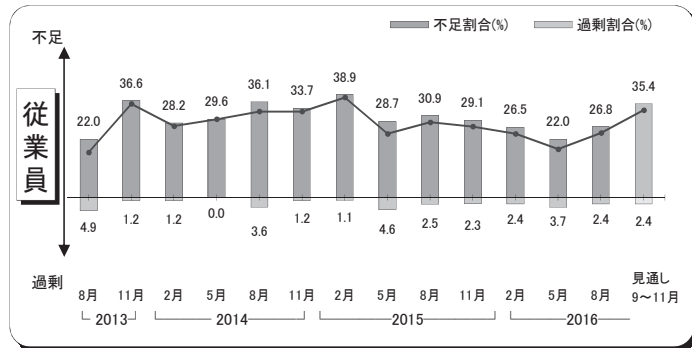
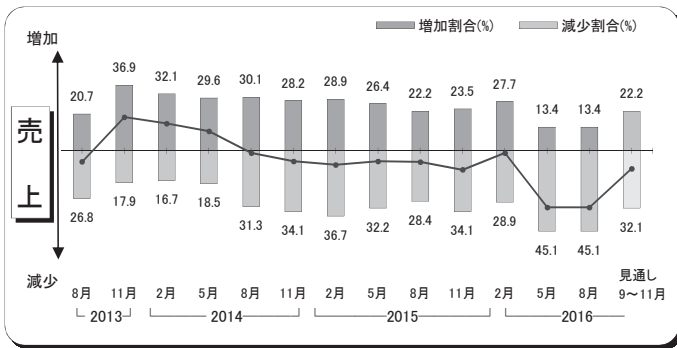
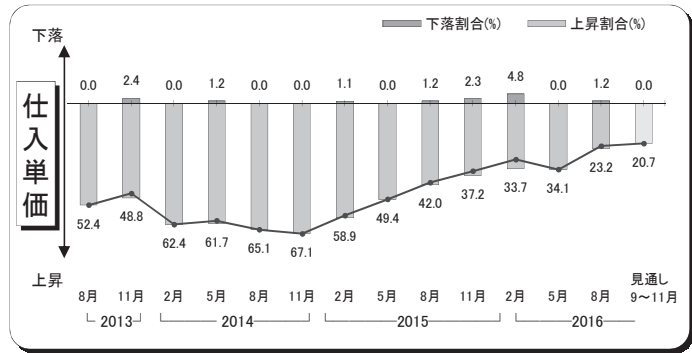
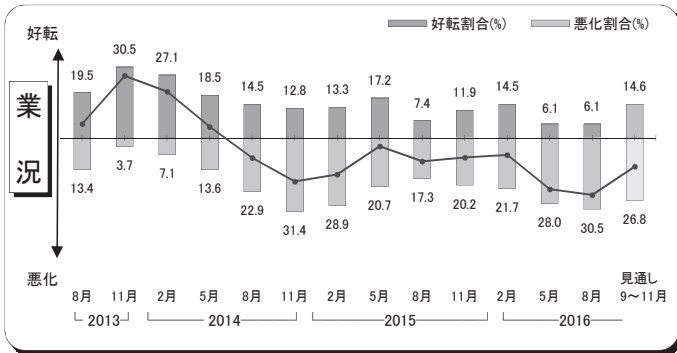
従業員推移



資金繰り推移



【建設業】①

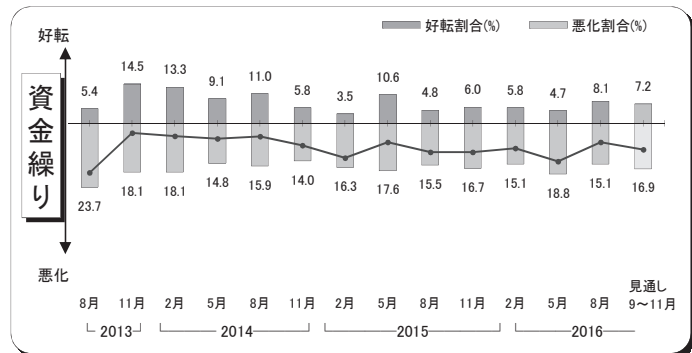
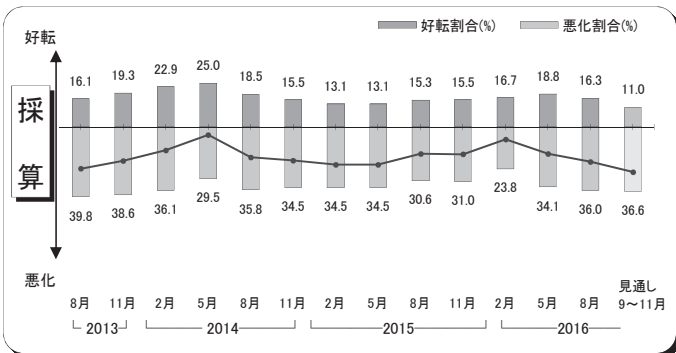
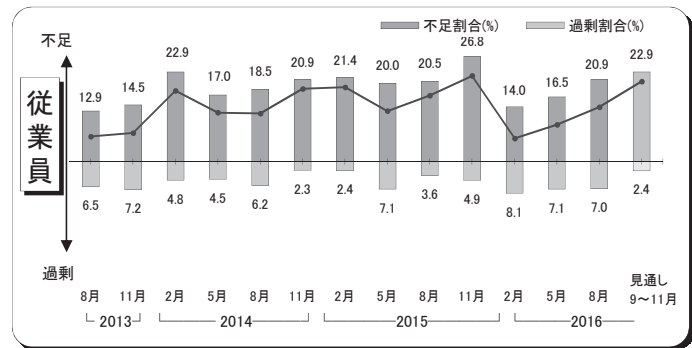
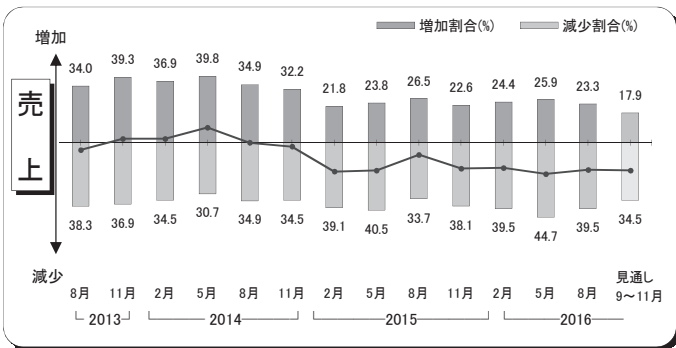
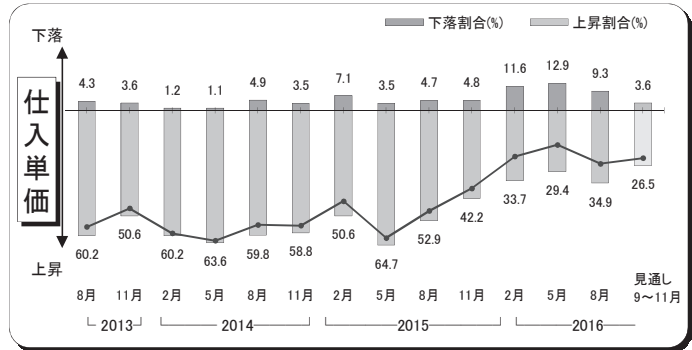
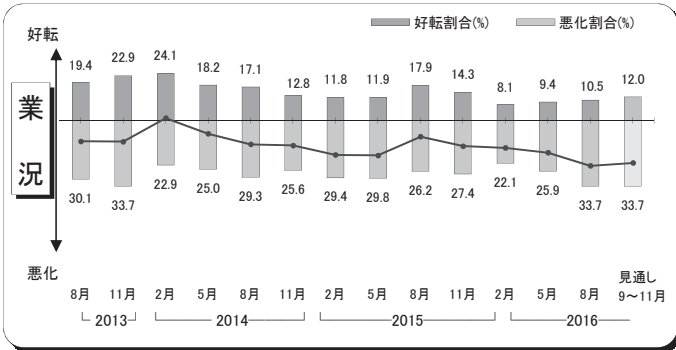


【建設業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

一般土木建築工事業	建設業界全体が業績好調であると感じられる。
一般土木建築工事業	動向は、なかなか良くなりません。相変わらず厳しい状況です。
建築リフォーム工事業	個人消費が落ち込んでいる。
とび工事業	先行きが見えない状況で、何とか仕事を受注しているものの、好転する見通しが無い。下請けとして受注している企業は、今後生き延びられるか不安です。
一般電気工事業	景気の動向は、良くも悪くもないです。
一般電気工事業	受注が順調。以前までは千葉だけでやっていたが、営業の行動範囲が広がった。
管工事業	時代のニーズに対応した商品開発が必要。かなりのスピードで様変わりしているので、情報収集をしております。
管工事業	ゼネコンはバブル期を上回る増収増益だが、東京一極集中で千葉は設備投資が減っている。新卒者の内定者が昨年に比べ少なく採用状況も苦戦している。
機械器具設置工事業	例年、公共事業の関係で秋にかけて年度の後半は忙しくなる。もっと先を見据えると、東京オリンピックの準備に向けて、受注機会も増え、業界的に先行きは明るくなるのではないかと。
冷暖房設備工事業	今月に入りやっと動き出し、現場の人手のやりくりで苦労している。天候に大きな影響を受けるが、更に暑さが続くことを期待している。資金繰りについて、千葉市の融資制度を活用し、今までになかった低金利で借入ができて良かった。

【製造業】①

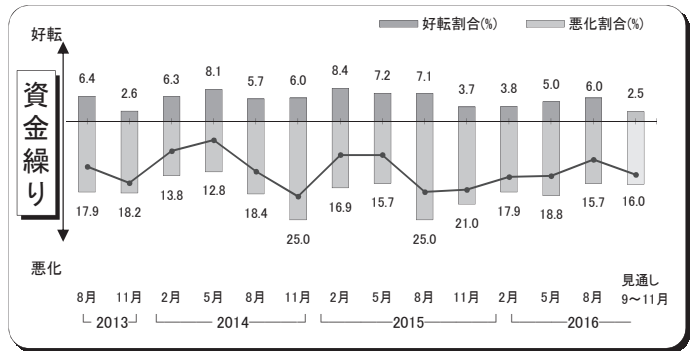
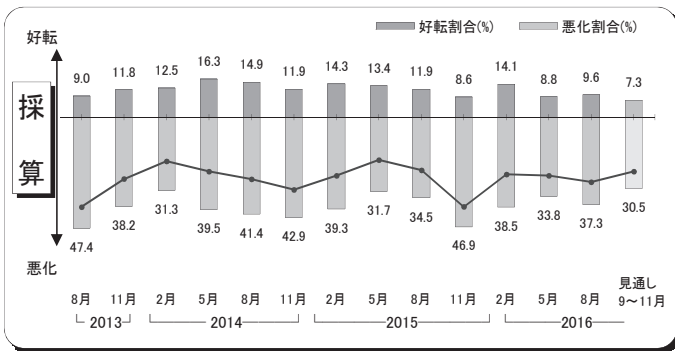
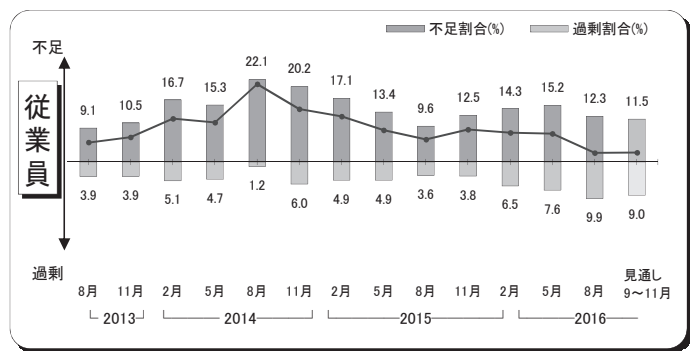
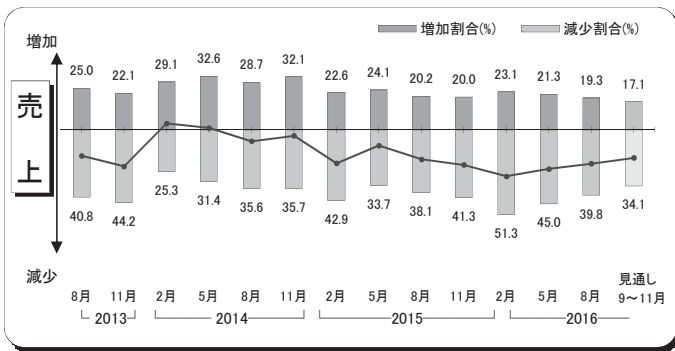
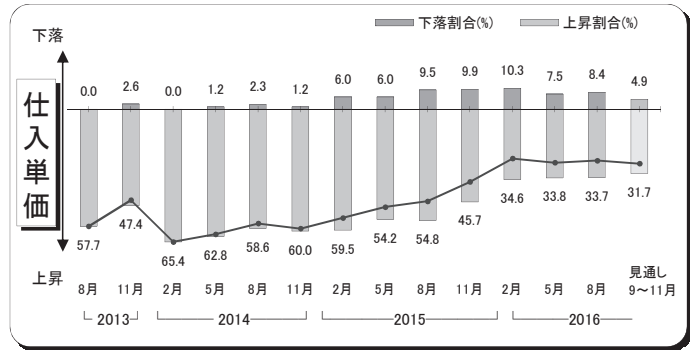
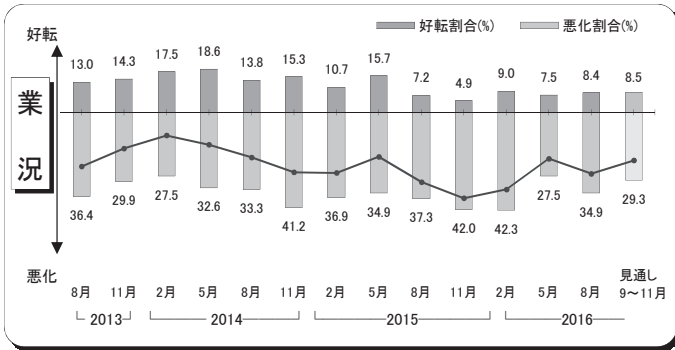


【製造業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

パン製造業	取引先のメーカーや卸問屋より、最近特に市況が厳しくなってきたという話を聞く機会が多くなってきた。最近1年間程度にわたって売上の減少が続いているので、新商品開発と新規ルートの開拓を進め、販売単価のアップと粗利益の改善に努めている。
木製家具製造業	正社員を増やして中間層を厚くしないと景気が良くならない。
オフセット印刷業	「山の日」で夏休みが増え、売上が減りました。
コンクリート製品製造業	6月～8月の3ヵ月を見ても昨年と比べ20%売上が落ち、在庫が増え、採算が少し悪化しているが、先行き見通しは受注物件が増えており、好転の兆しあり。
他に分類されない鉄鋼業	非常に悪い。政府は何とか対策しなければいけないと思う。
建設用金属製品製造業	現時点での今期の受注はある程度確保している。しかし、大口物件製作の為、材料費・加工費等の支払いが先行し、資金繰りの面で頭を痛めている。また、残念ながら当社が必要としている（特に技術系）人材を採用できておらず、なかなか思う様にいかない。
建設用金属製品製造業	新卒社員を採用したいが、なかなか採用できない。
金属製サッシ・ドア製造業	仕事量の減少により、販売価格の下落。
物流運搬設備製造業	仕入価格の上昇と品物薄状況。（特にオリンピック設備の為か、鋼材のコラム材、H形鋼等形鋼材、丸棒鋼等）
建設機械・鉱山機械製造業	当社は建設基礎資材のリース及び修理・部品販売を営んでいる。東北復興とも相俟って順調です。
プラスチック加工機械同付属装置製造業	銀行の中小企業を見る視点がまだまだ厳しいように感じる。毎月、月次資料を提示しているにも関わらず、分析がなされているか定かで無い判断や注文を付けてくることがある。的確な判断とアドバイス、迅速な裁定と適切な支援等が金融機関のあるべき姿ではないかと思う。
生産用機械・同部品製造業	工業系大学からの施工管理求人にも苦戦している。千葉の工業系大学、他県の工業系大学の学生いずれも東京志向が強く、千葉の中小企業への就職希望が少ない。全体的に少子化と地元志向の影響があり、施工管理を希望する人が少ない傾向にある。合同説明会・合同面接会の開催を希望する。
生産用機械・同部品製造業	全般的に下請加工業の仕事量は少なく、好転の兆しが見えない。長期低落傾向は、低金利政策だけでは救えない。
理化学機械器具製造業	輸出が売上の約7割を占めており、このところの円高傾向による受注の減少を危惧している。
集積回路製造業	現在は円高の為、仕入単価については少し安くなっています。為替も変動があり、分からない状態です。資金繰りについては、マイナス金利になったとき、融資をいただいているので困っていません。安倍首相になってから企業が全体的に好調の様な気がします。雇用については、ポリテクセンターから2名、ハローワークから1名の計3名を採用した。

【卸売業】①

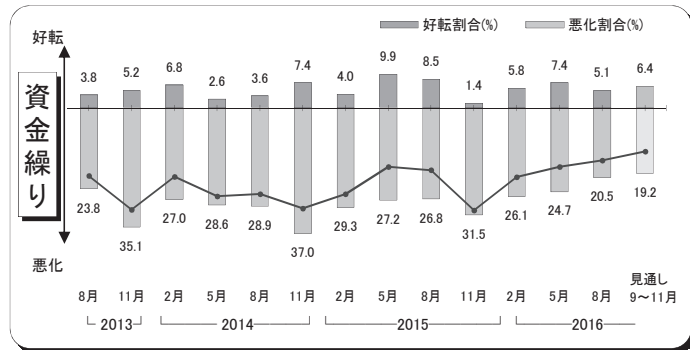
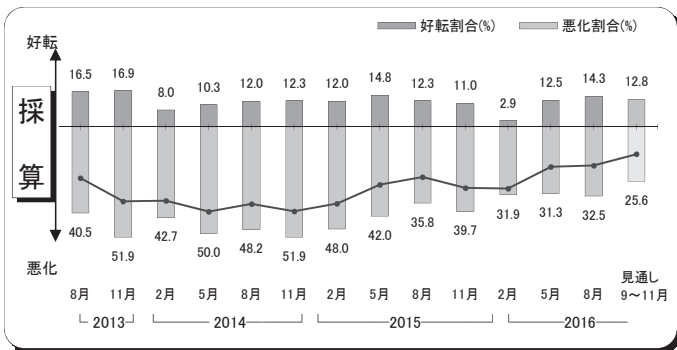
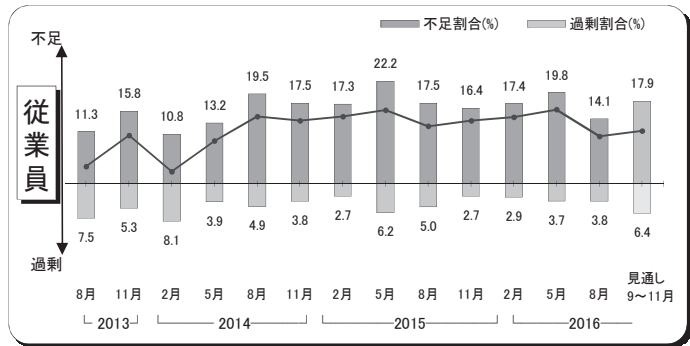
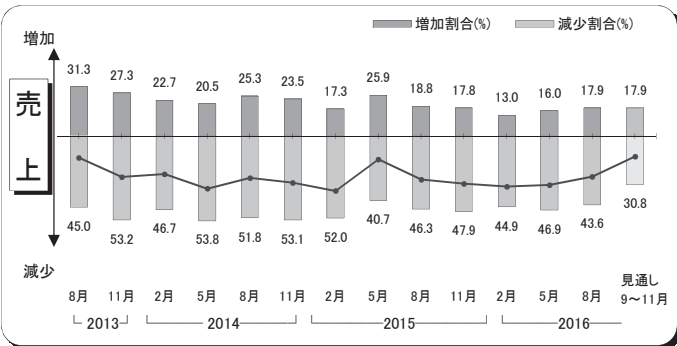
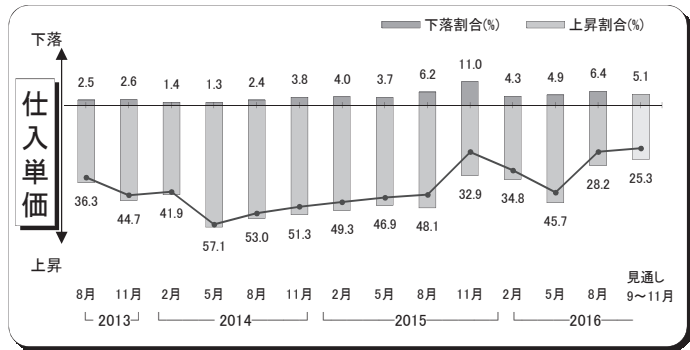
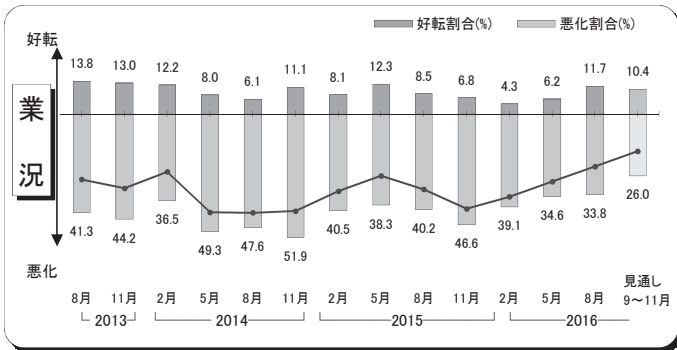


【卸売業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

食料・飲料卸売業	販売先の転換、異業種との取組、特殊製法技術商品の増量などを昨年より実施した結果、落ち込みの酷い昨年に比べ増収増益は叶ったものの、まだまだ会社が健康状態になるまでに時間は掛かると思われる。輸入原料の高騰は未だ進んでいて、販売先への値上げは困難な状況下であり、この先の不安は隠せない。しかし、新規販売先が好調をキープしているので、弊社独自の製法商品の拡販に努力していく。
その他の食料・飲料卸売業	円高の影響で、輸出の売上の先行き見通しは、少し暗いと言えます。
鉄鋼製品卸売業	中国経済の減速で、国内でだぶついた大量の鋼材が中国から安価に輸出され、世界的な鉄鋼価格の低迷を招いている。海外マーケットも悪く、急激な円高に伴い、非常に困難な状況が続いている。
その他の建築材料卸売業	弊社は建築資材の卸・小売を主としておりますが、外構工事を始めてから売上・利益率ともに増加しております。
非鉄金属スクラップ卸売業	原油価格と同じく非鉄アルミ市況も需給調整が進んできており、安定化してきた。中国は一党独裁の共産主義国家を支える為、公共投資を積極的に行い、経済の下支えとなると思います。秋口にかけてゆっくりと上昇ムードに変わることを期待しています。
その他の産業機械器具卸売業	このまま円高が進むのか、否か！
その他の産業機械器具卸売業	従業員が退職したが、人材確保が非常に難しい。また、雇ったとしても、先行きがどうなるか不安な為、正社員はリスクが大きく悩むところです。
他に分類されない その他の卸売業	為替動向。

【小売業】①

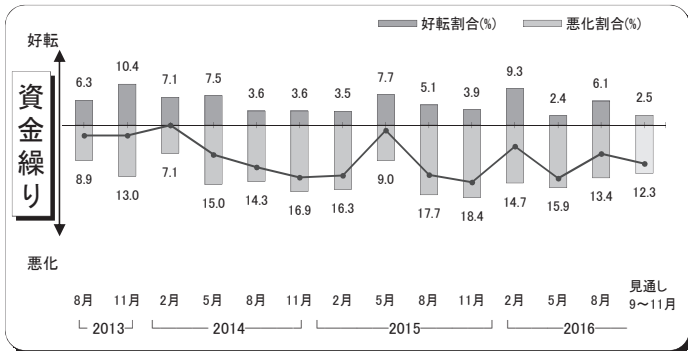
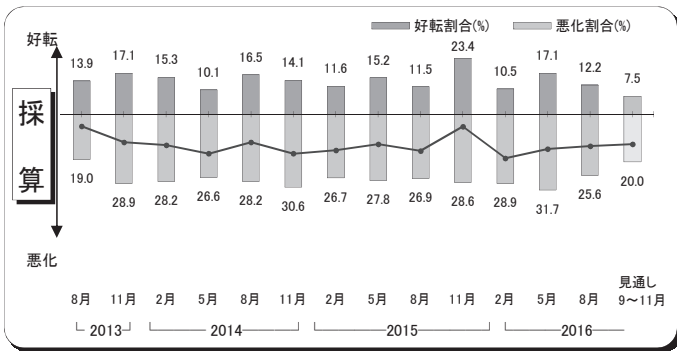
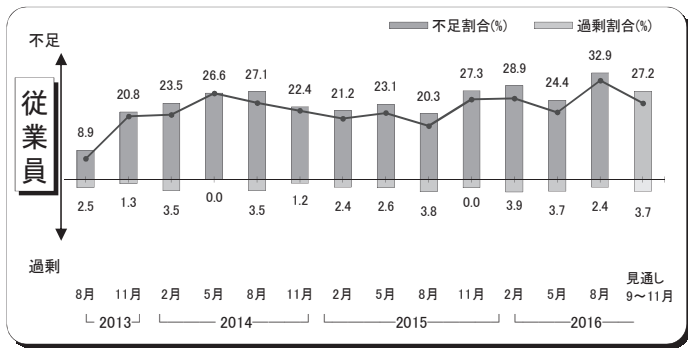
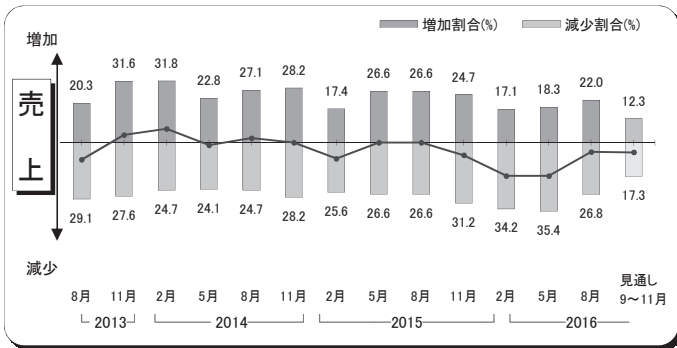
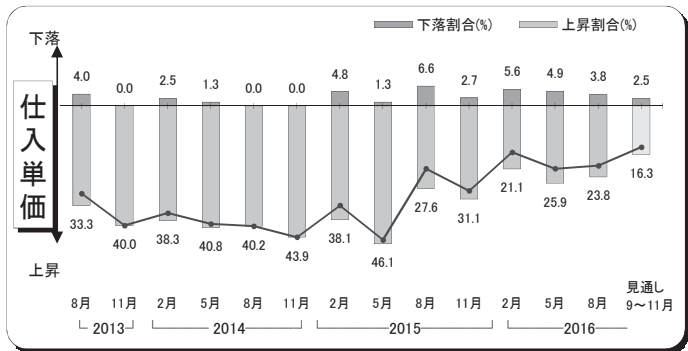
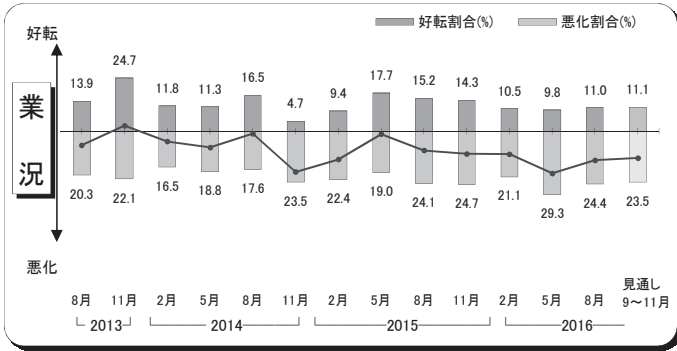


【小売業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

靴小売業	昨年のプレミアム商品券が効果的でした。
靴小売業	6月以降の円高により仕入原価が下がった。
各種食料品小売業	たまたま新規のお客が増えた。
食肉小売業	仕入値の上昇は無くなりましたが、個人消費が悪化して売上の減少になっています。
食肉小売業	個人のお客様というよりは、たまたま業務用の売上が伸びた。
菓子小売業	自営で行っている分は、経営が良くない店舗は閉め、新規店舗も増やした。卸として行っている分も、取引先の店舗（スーパー等）が増えたりしたので結果的に売上があがった。
家具小売業	依然として価格競争が激しい。若手営業戦力の確保が急務。
医薬品小売業	外国人の雇用についての調査がありますが（今回の付帯調査）、企業が外国人留学生又は外国人労働者を雇用するのは、ある一定の範囲で賛成です。今、世界で移民問題が取り上げられており、社会問題になっております。日本も将来少子高齢化に向けて働く人口が少なくなるということで、移民を受け入れる姿勢を多少国も考えているようです。しかし、人道的な問題はあるにせよ制限する必要は十分あると思います。そうでないと将来、今度は人が余って日本人が働けなくなる可能性があり、ヨーロッパで起きているような問題が起きかねません。
医薬品小売業	薬局の将来は暗い。
ガソリンスタンド	仕入単価上昇により、燃料利益がとれない。
燃料小売業	国内市場の需要減少傾向に伴うメーカー段階の再編は流通の整理統合に繋がる。縮小整理の波に呑み込まれずに自社の地歩を如何に確保するかが現在の経営課題。労務面では新規アルバイトの採用が難しくなっている。中途採用も経験者や熟練者が以前の様に短期間で補充することができず、若干時間を要する局面に変化。当社の顧客で以前より仕事が増えたという話はあまり聞かない。
書籍・雑誌小売業	新卒の求人を出しているものの全く反応は無し。売り手市場を実感します。中小企業の新卒採用は難しい。
紙・文房具小売業	6月・7月・8月の店頭売上が特に減少している。
スポーツ用品小売業	個人消費が持ち直しません。娯楽までお金が回らない方が多いのだと思いますが、大手メーカーの業界からの撤退、身売りの話等、良い話題がありません。同業者の撤退の話も多く聞き、当社の業態の転換等を検討しています。政府には国民が安心してお金を使える状態にして欲しいものです。

【サービス業】①



【サービス業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

運輸付帯サービス業	円高の影響か景況の悪化なのか全体的には低調化的何かを感じる。船の出入りが減少しているのか、それに伴って作業も減少しているように思える。現状維持かやや減少かと思われる。人員の異動等があり、やや不足気味。若干採用する予定。とりあえず全体的には様子見といったところか。
不動産代理業 仲介業	売上高については、営業の強化による自助努力と景気の動きにより上向いた。業況については、先行きの不透明感がぬぐえない。
建築設計業	雇用関係でいえば本年3月に1人定年退職をしましたが、補充はせずにいます。その人件費が減った分、利益に貢献すると思いきや、10月末日の決算まで黒字化には相当な努力が必要だと思われる。
建築設計業	住宅を含む民間の設備投資意欲は相変わらず低い。公共工事頼りの状況が変わらない限り、景気浮揚は無いと思います。
測量業	開発事業・土地利用が減ってきているので、業界としては明るい見通しがありません。
旅館・ホテル	昨年好調だったインバウンドの利用は、このところ停滞している模様です。電気・ガス代の単価が下がっている恩恵が非常に大きい状況です。
旅館・ホテル	雇用確保の為に人件費増加が人件費のみならず業務委託費など経費にも波及しコスト増を招いている。昨年から今年4月までは、都内ホテルの単価増によるインバウンドとビジネス客層が千葉エリアへ流入していたが、5月からの都内ホテルの稼働減少傾向により都内への客層逆戻りが始まった。ホテルは全国的にADR・Rev. Perの増加を主要施策として位置付けているが、千葉エリアはホテルの新規オープン、増築等による客室数増加の影響で稼働重視施策のホテルが多い。
専門料理店	円安による景気回復が再びあるかどうか。世界経済、特にヨーロッパの低迷は長引きそうなので暫く円高が続くように感じます。アメリカ大統領選の決着がつくまでは、このような状況が続くのではないのでしょうか。110円/US\$くらいでの安定を希望。
喫茶店	売上高が減少している中、最低賃金のアップ等、中小企業を無視した政策が進んでいる。大企業、フランチャイズに加入していない事業者は厳しい。国内の中小企業は無視されている。

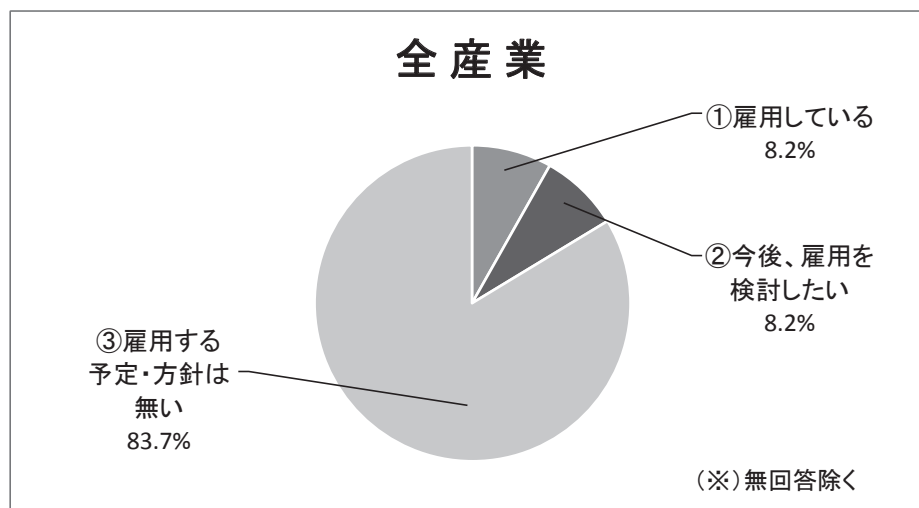
千葉商工会議所景気動向調査
(付帯調査) 集計結果

…平成28年8月…

調査期間:平成28年8月9日(火)～8月24日(水)

(1)外国人材について

	全産業	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
①雇用している	27	5	6	3	7	6
②今後、雇用を検討したい	27	6	2	2	8	9
③雇用する予定・方針は無い	277	52	66	59	47	53
無回答	80	19	12	19	16	14
計	411	82	86	83	78	82



【調査結果のポイント】

・外国人材の雇用に意欲的な企業(注1)は、全体の16.4%。

(注1)①～②と回答した企業

各業種における外国人材雇用に意欲的な企業の割合

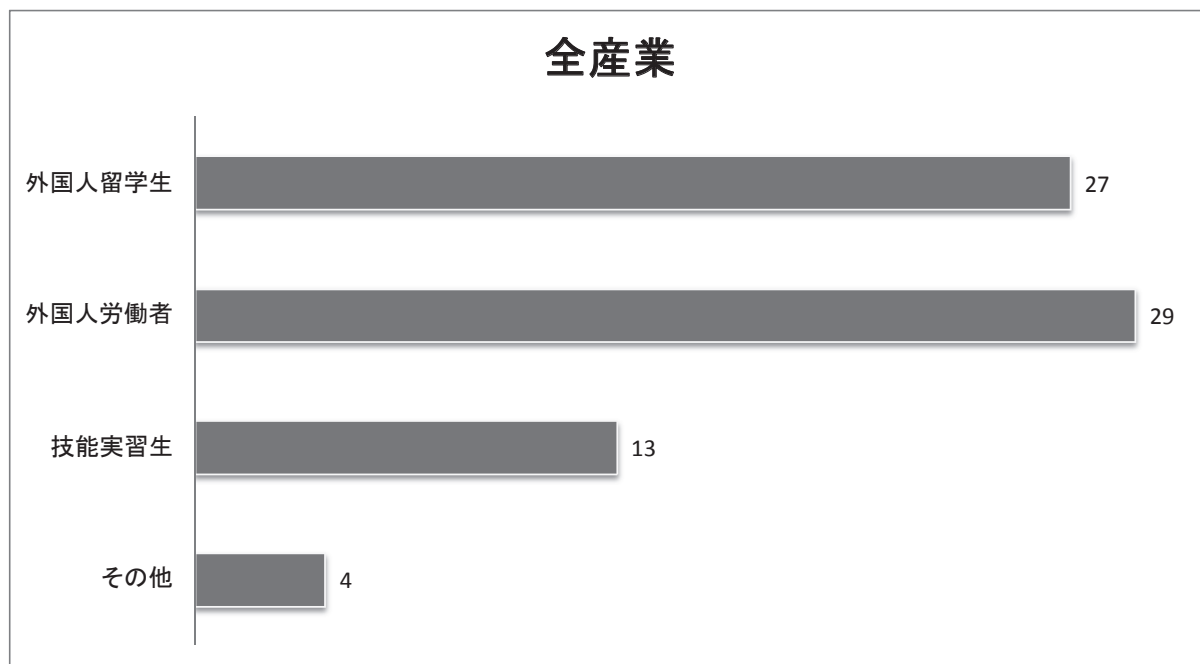
業種	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
割合	17.5%	10.8%	7.8%	24.2%	22.1%

(2) (1)で「①～②」と回答した方にお伺いします。

雇用している、又は雇用を検討中の外国人について、選択肢からお選びください。(複数回答可)

	全産業	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
外国人留学生(注2)	27	5	3	2	10	7
外国人労働者	29	6	4	3	9	7
技能実習生	13	4	1	0	3	5
その他	4	0	1	0	2	1

(注2)日本国内の留学を経た就職者。アルバイトを除く。





【お問い合わせ】
千葉商工会議所
総務課 企画広報室

〒260-0013

千葉市中央区中央 2-5-1

TEL: (043) 227-4101

Mail: chosa@chiba-cci.or.jp